

【別紙】

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【外国語／英語】

1. 対象

普通科2年生

真面目な授業態度だが、思っていることを率先して発表する生徒は少ない。言語活動には比較的意欲的に取り組むことができる一方で、言語知識の不足から日本語に頼ってしまう場面が見られる。

2. 単元名

BIG DIPPER English Communication II(教研出版)「Lesson9 A Bridge to the Future for Orangutans」(全10時間)

3. 単元目標（CAN-DOリストを踏まえて作成）

- ・文章の読解活動を通して、情報や考えなどの概要をとらえ、伝えることができる。(R1) (理解)
- ・話されている内容を聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。(L1) (理解)
- ・与えられた情報について自分の意見や考えを伝えることができる。(S1) (知識・理解 / 表現)
- ・自分自身の考えや意見を、修得した英語を応用して書くことができる。(W2) (理解・表現)

4. 本時の目標（Part4 の導入活動）

- ・希少動物や野生動物の保護に向けての取り組み事例を聞いて、どのような取り組みが考えられるか、または自分としては何ができるか簡潔にまとめて伝えることができる。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

希少動物や野生動物の保護に向けてどのような取り組みが考えられるでしょうか。

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
野生動物の通り道を作っている取り組みについて書かれた英文	地球温暖化対策に対する取り組みについて書かれた英文	ドローンによる密猟防止活動について書かれた英文	学生の野生動物保護活動への参加について書かれた英文
想定される活動	想定される活動	想定される活動	想定される活動
・英文を読んで、その取り組みについてキーワードをメモし、説明する準備をする。 ・野生動物の生息地を保護する活動があることを知る。	・英文を読んで、その取り組みについてキーワードをメモし、説明する準備をする。 ・野生動物の個体数の減少は地球温暖化が一因となっていることを知る。	・英文を読んで、その取り組みについてキーワードをメモし、説明する準備をする。 ・最新の技術を駆使した野生動物の保護の取り組みについて知る。	・英文を読んで、その取り組みについてキーワードをメモし、説明する準備をする。 ・野生動物保護について知識を深めたり、自分の目で確かめられたりする機会があることを知る。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

知識構成型ジグソー法により、対話を通して思考を深めながら、希少動物や野生動物の保護に向けての自分の考えをワークシートに表現する。

（活動前）ワークシートに希少動物や野生動物の保護に向けての自分の考えを書く。★思考

（活動1）集団を4グループに分け、「考えるための材料」A～Dを各グループに1種類ずつ配る。それぞれのグループで協働して資料の内容を理解し、キーワードやキーフレーズをメモする。【エキスパート活動】★対話

（活動2）グループのメンバーがそれぞれ学習してきた「考えるための材料」の要旨を伝える。その際、聴き手は発表者の発表内容についてメモと評価をする。【グループ】★対話、思考

（活動3）発表内容をもとに、希少動物や野生動物の保護に向けてどのような取り組みが考えられるか、グループ内で話し合う。【ジグソー活動】★対話、思考

（活動4）いくつかのグループの代表者が話し合った内容について全体に伝える。【全体】★思考の深まり

（活動前）ワークシートに希少動物や野生動物の保護に向けてあらためて考えたことを書く。【個人】★思考の深まり

【別紙】

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）	
<p>・英語を用いた話し合いを通して、自分の意見を述べたり相手の考えを受け入れたりすることができるようになる。</p> <p>・英語を用いた話し合いを通して、自分の考えや意見をまとめ表現できる。</p> <p>（希少動物や野生動物の保護に向けての取り組みの例について学び、自分ができるような取り組み・実行するのに難しい取り組みは何かといったことについてグループ内で話し合うことができる。また、得た情報や話し合いの内容を踏まえて自分の考えや意見を書くことができる。）</p>	
予想される生徒のあらわれに関する育成すべき資質・能力三つの柱からの分析	
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた英文の内容を的確に読み取ることができる。 ・自分の意見を述べたり、相手の考えを受け入れたりするための英語表現を知っている。
②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた英文の内容について、その要旨を平易な言語を用いて的確に伝えることができる。 ・与えられた材料内の内容をもとに、どのような取り組みがあるか理解を深めることができる。 ・希少動物や野生動物の保護に向けての取り組みについて協議し、英語で説明することができる。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none"> ・材料から得た情報についての英語を用いた話し合いを通して、自分の意見を述べたり相手の考えを受け入れたりすることができるようになっている。 ・話し合いで得た情報をもとに、授業前の自分の意見をよりよいものに改善しようと努力できている。 ・希少動物や野生動物の保護という観点から、自分の立場で考えたり、様々な取り組みにおける課題を発見できる。

授業実践振り返りシート(授業前後)

ねらい

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え(あらわれ)を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	野生動物を保護するには、生態系を崩さないようにする。木を植えて動物の住みかを確保する。	動物の通り道を作ってあげるのが効果的な方法だと思った。移動範囲が広がれば、動物たちが繁殖できるようになり、数の減少につながる。
Bさん	森林を伐採したり、ゴミを捨てないようにする。森林、海、川などの動物の生息地をきれいにする。	やはりゴミを捨てるようにすることが野生動物の保護につながる効果があると思う。野生動物の環境について多くの問題があることがわかったが、まずはいつでもどこでも行動を起こすということも大切だと思う。
Cさん	野生動物を安全な場所に移動させる。	野生動物が直面している問題について知り、どのように解決すべきか考え、共有する必要がある。また、ボランティア活動などを通して野生動物が深刻な問題を抱えていることについて理解するとよいと思う。
Dさん	地球温暖化を止める。 ゴミを捨てない。	野生動物の数が減っていることは知っているが、その原因や理由について細かいことは分かっていないので、そのことについて理解する必要がある。Wildlife ACTの活動に参加して現地調査をしたりレポートをまとめることができれば、野生動物についてどんなことをすべきか知ることができる。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場で考えるのか、社会全体に働きかける側として考えるのかがはっきりせず、考えが深まらない生徒もいた。 ・ライティングでは、最初の考えと異なる発見というわけではなく、もともとの意見を繰り返しまとめた生徒が多かった。課題の設定の十分な検討が必要だった。
考える材料	<ul style="list-style-type: none"> ・英文教材のレベルを高く設定してしまったため、読解に苦労した生徒が多かった。材料自体は平易なものを改善して、対話と思考の時間を確保できるようにする。 ・英文の内容が生徒にとって身近な話題でなかったため、読解や話し合いの場面では自然保護に取り組んでいる活動内容に対する共感や意見などを持つまでに至らなかった。
対話と思考	<ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法を取り入れた活動がこの課題解決に適していたか、疑問が残った。相手と情報交換しなくても答えがでてしまうような課題設定であったため、対話と思考の過程が不十分だった。話し合いの内容についても適切な指示が必要だった。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・野生動物の保護に向けて、自分の知らない取り組みがあることを学ぶことができたと感じた生徒は多かった。 ・英文を読もうとする主体性はあったが、読むことに精一杯で問題を解決したいという主体性を引き出すことができなかった。